

～19世紀末期から20世紀初頭の靴～ ー日本はきもの博物館所蔵ー

1900年頃、イギリスか。
花柄を織り出したシルク地の
ミュール。やはり花柄のリボン・
テープの縁取りと飾りがある。
内底は綿を包んだシルク・サテ
ン。左右の別はあるが、土踏ま
ずの支えはない。
長23.7×幅7.0×全高6.1cm、ヒール
高3.5cm。



19世紀末期、フランス。
きれいなサーモンピンクのシル
ク・クレープをキルティングし
た室内履き。同色にしたダチョ
ウの羽根飾りが付く。
室内履きの外底には柔らかい革
が用いられるようになる。
長25.5×幅7.7×全高10.4cm、ヒール
高4.5cm。

1900年頃、フランス。
シルク・サテン地にリボンテー
プの立体的な装飾をした華やか
なブーツ。内側にはキルティン
グ地。
ゆったりしたシルエットでヒール
部分を空洞にしたオーバー
ブーツ。
冬期、馬車に乗る時などの防寒
に靴に重ねて用いたという。
長27.2×幅7.3×全高27.7cm。

